

21世紀水倶楽部だより

発行：特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部
発行者：亀田 泰武
編集：特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部 広報担当
〒171-0011 東京都豊島区目白2-1-1
URL <http://www.21water.jp/>
E-mail info1@21water.jp

第44号 2016年6月1日号

周回遅れのトップランナー

理事 山木幸夫

私の故郷は、北海道の石狩平野の最北部にある沼田町で、炭鉱と稲作の町として昭和30年には2万人の人口であったが、炭鉱の閉山と離農者が相次ぎ現在では3200人の消滅間際の小さな町である。寒冷（過去最低気温マイナス40度観測）で積雪



（平均累計降雪量11m）が多く、12月から4月末までの5か月は雪に埋もれた生活となる。

下水道とは無縁と思っていた故郷でも特環下水道が着手され、下水道事業団により平成2年にOD法で処理開始を迎えた。現在の処理人口は2200人で、コンパクトな街中心部の下水道接続率は、長い冬期の汲み取り便槽の管理から解放されることもあり99%と非常に高い。さらに快適なトイレをめざし温水洗浄便座の家庭が多く、トイレ環境は激変した。このような現象は全国各地で起きていると思うが、沼田町では平成19年に家事用ディスポーザーの導入も開始し、併せて設置助成制度を設け今やディスポーザーの人口普及率は4割の状況にある。隣町の秩父別町でも農業集落排水事業に導入している。

私の家（埼玉県吉見町）が公共下水道に接続したのが平成18年であり、帰省した折にやっと我が家のトイレも故郷に追いついた事を兄貴夫婦と話していたら、台所でガリガリ音がするので尋ねたところディスポーザーの破砕音との説明があった。下水道のプロを自認していたが実物のディスポーザーを見るのは初めてであり、清潔な台所と豪雪地帯でのごみ出しから解放された生活

に感心したが、それ以上に東京近郊の家庭にこのような便利なものが無いことに故郷の兄貴夫婦が驚いていた。

こうしたことから都市と田舎との生活レベルに差があるという考え方は改める必要があるようだ。人口減少社会を迎え、限られたリソースの中で関係者が柔軟な発想で知恵を出し合い課題解決を図ることが大事だ。技術革新によりバイオガス等の分散型小型発電や無線LANによる情報交換が可能となった。都市のアドバンテージは思っているほど小さくなく、どの地域でも一躍トップランナーになる可能性が多いにあるだろう。今まで邪魔者と思っていた雪、ゴミ、家畜糞尿、間伐材等が貴重な地域資源（宝物）になるのだから。

2016年度活動報告

木更津の干潟(盤洲干潟)見学報告 2016/05/08

理事長 亀田泰武

8回目となる木更津の干潟見学会を企画。休日で参加が期待されたが連休中であつたせい去年と同じく4名であつた。当日は、新月の大潮で干潮が11:49。連休最後の休日ということで人出がすごく、入場券を購入するのに15分くらい並ぶほど。

木更津の潮干狩り場は盤洲干潟の西端にあり幅200m、大潮時は奥行き1km。

岸から400mくらいの所から熊手を入れはじめ、人が比較的多いこの辺がこの辺のアサリが生息密度が高かつたよう。ここから沖に行くにつれ少なくなり、800mくらいになると掘って出てくるのは貝殻ばかり、アサリも他の貝も見つからず。

取れたのは昨年と同じ程度1.5kgくらい。昨年より少し大きい感じで、小さいアサリの比率が少なく、稚貝が殆ど見られなかつたのが気になる。今年の稚貝定着がうまくなかつたためか。潮干狩りには良いのだけど、来年どうなるだろうか。

ここの地場アサリは貝殻模様が面白く、一昨年かから模様写真を載せている。



模様がユニークなアサリ

バカ貝、シオフキなど昔は非常に多かったのに姿を見ることがなく、マテ貝も見ることがない状態が続いている。ツメタ貝のお椀型の卵は沖の方で少しあったものの例年より減っているなど生物相は毎年変わっている。

干潟に入って気がついたのが、タマシキゴカイの砂のとぐろが多数あること。昨年目に付いたミズヒキゴカイの桃色の植物の苗のようなものは沖の方に少しある程度。

今回、風が穏やかで海水がきれいなせいも、沖の方の水たまりでフグやヨウジウオのような細長い魚を見ることができた。カレイの稚魚にも遭遇。また4～5百メートルのアマモの所で大小のワレカラを多数目撃。



タツノオトシゴ

編集幹事のあと整理

- 巻頭文は山木理事の「周回遅れのトップランナー」。「周回遅れ」は通常否定的な意味で使用されますが、この文では後発性利益に近いように読みました。
- 5月8日(日)催行の木更津干潟見学会報告を亀田理事長からいただき掲載しました。HPにも報告文を掲載しています。あわせてご覧ください。
- 会員だよりは今号では投稿がありませんでした。
- 会員だよりコーナーへの投稿を募集しています。投稿はいつでも受け付けます。直近の号に掲載します。投稿要領などは望月から毎回お出ししている原稿依頼メールをご覧ください。

編集幹事・望月